

Q1. 学部での卒業論文は審査材料に入りますでしょうか

A1. 基本的に、学部での卒業論文は審査対象にはなりません。博士前期課程入試の場合、研究テーマに関する研究論文等を提出することができますが、提出は任意です。

Q2. 英語の出願ラインは、そのライン以上あっても、“加点”にはならないのでしょうか？また、IELTS の提出を考えておりますが、IELTS から直接送付する制度を受け付けておりますでしょうか？

A2. 英語能力試験のスコアは、出願に必要な最低スコアが定められている他に、書類審査や口述試験でも評価対象になります。IELTS から直接送付する制度は受け付けておりません。

Q3. 奨学金を取りたいのですが、どうすればよいですか？

A3. 下記のサイトをご参考にしてください。

<https://www4.gsid.nagoya-u.ac.jp/admission/scholarship>

Q4. 募集要項に成績証明書、卒業証明書は電子版でも可という記載がありましたが、紙ではなく電子版でも大丈夫でしょうか？

A4. 原本が紙である場合は、紙での提出が必要です。

Q5. 希望指導教員に事前に研究計画書を見ていただくことは可能でしょうか。また、参考文献リスト・図表に含まれる文字は文字数外という認識でお間違いないでしょうか。

A5. 博士後期課程入試の場合、合格した後に指導教員となってもらえる教員の了解が必要ですので、事前に研究計画書を見てもらうことが多いと思います。博士前期課程入試の場合、教員による事前了解は必須ではないですが、もし余裕を持ってコンタクトをし、教員が合意すれば、事前に研究計画書を見てもらうことは可能です。研究計画書については、日本語の場合は上限文字数、英語の場合は上限語数が定められており、超過した場合は減点対象となります。これについて、参考文献リストについては制限外ですが、図表については減点対象となることがあります。

Q6. 博士前期課程への入学を希望しています。学部留学をした際の海外大学の成績証明書が英語版であるのですが、そちらも提出可能でしょうか。また、成績証明書がオンライン上の書類のみなのですが自分で印刷して提出する形よろしいでしょうか。

A6. 英語の成績証明書を提出して構いません。出身大学からの電子版の提出でも構いません。

Q7. 学校で試験を実施する際、英語で行われる外部のコンテストなども開催されますか？もしある場合、その試験の形式はどのようなものでしょうか？

A7. 英語は、TOEFL、IELTS、Duolingo といった民間の英語能力試験のスコアを提出してください。英語能力については、そのような英語能力試験のスコア及びオンラインでの面接試験で審査されます。

Q8. GSID は多子家庭の大学無償化の適応内でしょうか？

A8. 一般的に、大学院は多子家庭の大学無償化の対象外です。

Q9. 東京で社会人を続けながら博士後期課程で研究することを検討しています。そのような学生生活は可能でしょうか。大学に頻繁に来る必要があるなど、遠方かつ社会人では難しい点がありますでしょうか。

A9. GSID では、博士後期課程の学生は海外を含む遠隔に住み仕事をしながら研究を進めている学生は多いです。特にコロナ禍以降、指導教官とのオンライン面談はもとより、オンラインでの演習参加や博士後期課程の口述試験を含む研究報告会は増えており、大学に頻繁に来る必要はなく、距離は博士後期課程での研究の進捗に影響しないと考えています。仕事を続けながら博士後期課程で研究する場合、時間管理の方が難しいと思われれます。

Q10. 人工知能はカリキュラムの重要な要素ですか？ AI の時代において、生徒の教育をどのように育てていますか？

A10. 生成 AI の利活用に関する現時点での名古屋大学の方針として、下記のサイトをご参照ください。

<https://www.nagoya-u.ac.jp/about-nu/declaration/ai/index.html>

Q11. 研究室訪問は受け付けておられない教員の方もいらっしゃいますか。教員の方に連絡がつかなかった場合、メール以外の手段でコンタクトを取ることもできるのでしょうか。

A11. メール以外の手段としまして、下記のサイトからお問い合わせいただくことが可能です。

<https://www4.gsid.nagoya-u.ac.jp/access>

Q12. 修士課程は卒業までに、授業科目が何単位分ありますか？

A12. 博士前期課程の修了に必要な総単位数は 30 単位です。なお、指定された科目の単位を修得する必要がある点にご注意ください。

Q13. 確認不足でしたら恐れ入ります。研究計画書および志望理由書の書式についてですが、「学生募集・学生生活」のページからダウンロードできる WORD 形式の書式を使用するという認識で合っておりますでしょうか。

A13. ご認識は正しいです。

Q14. 博士後期課程: 志望教員との事前のコンタクトについて、個人的には先生方が夏休み頃にご連絡するのが適切かと考えております。が、入試の前にコンタクトしておく

ことが重要で、コンタクトするための特定の時期は特にないという理解してよろしいでしょうか。

A14. 出願以前である必要はありますが、コンタクトするための特定の時期は特に設けておりません。

Q15. 博士後期課程: 博士課程の出願に際しては、英語の試験（スコア等）の提出は必須となるのでしょうか。

A15. 博士後期課程については、英語能力試験のスコアの提出は任意です。

Q16. 英語能力試験のスコア、研究計画書、志望理由書等の入試における点数配分は開示されていますか。もしくは総合的に判断ということになりますか。

A16. 総合的な判断となります。

Q17. 修士課程の面接テストについて、面接時は英語または日本語で行いますか。

A17. 面接は英語または日本語で行いますが、日本語で行う場合、英語での質疑応答を一部に含むことが多いです。

Q18. 成績証明書と卒業見込み証明書に関して、所属したすべての高等教育機関のものと記載されていますが、これには単位になっていない海外留学も含まれますか。また、海外大学から修了証明書が発行されていない場合はどのようにすればよろしいですか。

A18. 取得単位がない場合に、成績証明書が発行されていないのであれば提出は不要です。大学の学位取得に関わらない場合で、修了証明書が発行されていない場合、提出は不要です。不明点などは入試担当窓口までお問い合わせください。

Q19. もし1月の試験に不合格になった場合でも、来年9月の再受験に向けて6ヶ月間、貴校の予備生として在籍することは可能でしょうか。また、その場合、ビザの延長について貴校からのサポートはございますでしょうか。

A19. 私費研究生の場合、所定の手続きを経て、研究生としての身分を継続することが可能です。文科省国費などの研究生の場合、定められた期間内は研究生身分を継続することが可能です。